NAKANO LIBRARY

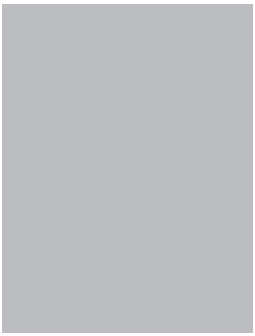
東京工芸大学中野図書館報

TOKYO POLYTECHNIC UNIVERSITY

25

ケース表

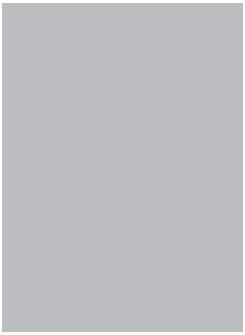
ケース裏



表紙

序文 p.6
寺子屋　扉

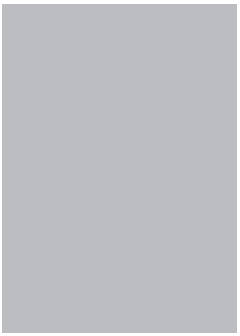
中野図書館の貴重書架には文化史的に意義ある資料が収蔵されています。ここに紹介するカール・フロレンツ（Karl Adolf Florenz）のドイツ語書籍もそのひとつです。本書は、1900 年にドイツのライプツィヒで“Japanische Dramen : Terakoya und Asagao”（『日本の芝居「寺子屋」「朝顔」』）の題で出版されました。本学に収蔵されるのはその第七版（1914 年）です。ここにドイツ語訳されているのは、歌舞伎や人形浄瑠璃などで知られる演目の脚本です。とくに「寺子屋」は、『菅原伝授手習鑑』「四段目」のなかの「寺子屋の段」というたいへん人気のある部分です。『菅原伝授手習鑑』は、初代竹田出雲・竹田小出雲・三好松洛・初代松木千柳の合作で書き上げられ、1746 年大阪で初演されました。主人公「菅丞相（かんしょうじょう）」は、聡明高潔な人物として令名をはせるも「昌泰の変」（901 年）で失脚し失意のなか太宰府で薨去した菅原道真にあたります。その悲運をこの芝居はたどりますが、なかでも「寺子屋」の段は胸をかきむしられるようなストーリーで、古くから歌舞伎役者の名演技で知られます。フロレンツが本書「序文」でこの芝居を



寺子屋　p.2

寺子屋　p.24 p.25

朝顔　扉裏　p.1



朝顔　p.9

Trauerspiel（哀悼劇、悲劇）であると紹介しているのは当を得ています。

翻訳者のフロレンツは 1865 年にドイツ・チューリンゲン地方のエアフルト市に生まれました。大学で言語学を専攻、1889 年に日本政府招聘で東京帝国大学のドイツ語教員につきます。彼は 1917 年任期満了で帰独するまで、古事記や日本古典文学のドイツ語翻訳などをおこない、ドイツにおける日本学研究の先駆者となりました。本書はその業績の一端でもあります。

なお、本書は「縮緬（ちりめん）本」という装丁で出されています。和紙に細かい皺の寄せてある和綴じの小冊子は今では珍しいものでしょう。本学所蔵本は、縮緬のしわがよくのこっていて、しわがつぶれたりのびきったりしていない状態にあり、図版などを見ますと出版当初の印刷効果がよくわかると思います。ぜひ規律ある管理のうえ、永年収蔵がのぞまれる貴重資料です。

中野図書館長　小川真人

「伴大納言絵巻」と時代考証

「時代考証」という言葉がある。装束や髷、建築などが当時のものとして正しいかどうかを検証することで、主に映画やドラマなどで使用される用語だが、時代・歴史小説等のイラストレーションの仕事でも必須の作業である。

例えば戦国時代と江戸時代の男性を比較すると、同じ「武士」という身分であっても頭髪の形が違う。戦国時代は頭頂部で髪を結び、馬の尾のように後ろに垂らす。もしくは「茶筅髷」といわれる、結い上げた先を短く切った髪型などが主流だ。一方で江戸時代になると、結った髪を折り曲げ頭頂部に乗せる独特の髪型になる。このように時代ごとに様々な時代考証が存在する。

『源氏物語絵巻』『信貴山縁起』『鳥獣戯画』『伴大納言絵巻』は日本四大絵巻と称される絵巻物で、平安時代～鎌倉時代にかけて作成されたものである。この中でも『伴大納言絵巻』は貞観 8 年に実際に起こった「応天門の変」をテーマにしている。

『折本日本古典絵巻館　伴大納言絵巻』
家永三郎 監修　貴重本刊行会　1993 年　9 紙（上）　11 紙（下）

歴史編纂家の山本博文は『日本史の一級史料（光文社新書）』の中で「歴史を現代に蘇らせるために有効性の高い史料」を「一級史料」と呼んだ。応天門の火災は 866 年の出来事で、『伴大納言絵巻』の完成はその 300 年後のため、これを「応天門の変」に関する「一級史料」と呼ぶことは難しいかもしれないが、平安時代末期の時代考証を取るための史料としては「一級史料」といえよう。

紹介図書である『折本日本古典絵巻館』にはカラーで克明に『伴大納言絵巻』が印刷されており、細部の観察に適した書籍だ。そこには装束や模様、建築、武具や馬具などが人々の多彩な表情とともに細かく描かれている。本学の図書館には『日本絵巻物全集』など絵巻物が掲載された大判の書籍が多く所蔵されている。私も利用するたびに「こんな貴重な書籍も揃えているのか…」と驚くほどだ。

またこういった絵巻物は、時代考証だけではなく「日本らしさ」の図像の参考としても多くの役割を果たしてくれる。例えば火災の様子で描かれた炎の形は独特の形状をしており、そういった図形を作品に活かすことができる。本学で教鞭を執られていた谷口広樹先生と照沼太佳子先生が手掛けられた『長野冬季オリンピック 開・閉会式プログラム』の表紙には、日本国旗とともに聖火が描かれているが、その図形はまさにこの『伴大納言絵巻』に代表される炎の描き方が応用されている。

デザイン学科　教授　遠藤拓人

バカバカしい製品カタログ！？

私たちの身の回りには機械や電子機器等が溢れており、日々の生活を支えています。私の朝を例に見てみると、電動歯ブラシで歯を磨き、湯沸かしポットのお湯でコーヒーを入れ、スマートフォンで天気予報をチェックし、時計を見て慌てる、といったように多くの機器に助けられています。こうした機器には機械工学、電気工学、電子工学、情報工学といった様々な分野の知見が集積されており、これらは「メカトロニクス」と呼ばれています。

『明和電機：ナンセンス=マシーンズ』
明和電機　NTT 出版　2004 年

そんなメカトロニクス技術を使って、あまり暮らしの役に立たないものを作っている人がいます。今回紹介するアーティスト「明和電機」もその一人です。明和電機は土佐信道氏によるアートユニットで、制作された作品を「製品」、ライブを「製品デモンストレーション」と呼ぶなど、中小企業のスタイルで様々な作品を開発し、幅広く活動しています。役に立たない機械なんてナンセンスだ！と思うかもしれませんが、ナンセンスな機械には私たちの心を強く惹きつけるアート的魅力が宿っています。この書籍はそのような「ナンセンス=マシーンズ」の「製品カタログ」となっています。

書籍内に登場する作品の多くは金属製の重厚なつくりで、手やモーターで駆動する機械の姿をしています。「セーモンズ」という作品は、ゴムでできた人工声帯にふいごで空気を送り、張力を制御することで歌を歌う三体の装置です。また、「リングリン」という作品は、サークル上に並んだウロコのスタンプで前腕部の皮膚をたたき、リング上のウロコのあざをつける装置です。さらに、「パチモク」という作品は、開閉式ウィング型ユニットを背負い、指パッチンで木魚を鳴らすことのできる楽器です。その他、膨大な数のナンセンスな「製品」紹介を通じて、私たちの持っている「常識」や「普通」といった価値観ががらっと相対化されてゆきます。

アートは衣食住と違い、それが無くなったからといって直接命に関わることはないでしょう。しかし、役に立たないもの、無駄なもの、遊びの部分が私たちの心を豊かにしているのも事実です。明和電機の生み出す「製品」には、技術を駆使して全力で遊び倒す、良い意味での「バカバカしさ」がたくさん詰まっています。

インタラクティブメディア学科　助教　中島武三志

魔法を生み出す論理

『生命を吹き込む魔法』
フランク・トーマス、オーリー・ジョンストン
著　徳間書店　2002 年

ディズニーアニメーションに関する書籍は数あるが、本書はその中でも最良の書として親しまれてきた本である。

その魅力はまず掲載された豊富な制作資料にあり、500 ページ超の紙面に展開する各作品の原画・スケッチ・デザイン画等々は見るだけでも眼福と言えよう。ただし、本書は単なるアートブックではない。冒頭約 1／3 で語られるスタジオ草創期からのアニメーション表現史、後半で詳説される事例解説は具体的かつ理論的であり、多くの示唆に富んでいる。

全体を通読して思い知らされるのは、ディズニースタジオにおいてアニメーション製作は単なる流れ作業の連結ではなく、「生命の幻影（The Illusion of Life、本書の原題）」を実体化するための巨大なシステムであったという事実である。「生命の幻影」とは何か。絵として描かれたキャラクターは現実の再現ではない（「芸術作品は写しではない」（p. 327））。ではキャラクターに生命を吹き込むためには何が必要か。

現実の観察に基づきながら、その動きや形のエッセンスの抽出・誇張によってキャラクターの実在感を創出すること。それがウォルト・ディズニーの求めた「戯画化されたリアリズム」であった。「アニメーションの 12 原則」をはじめとする基本原理や技術の集成がキャラクターアニメーションという「イメージの言語」（p. 27）を構築する。その達成の大きさに圧倒されつつ、だが、と一方で思う。この大著にフォローされていない別の可能性も当然存在するはずだと。

例えば、無生物（自然現象や自動車等）のアクションは「アニメーターにとってマスターするのに手間暇のかかる、退屈な作業」であり、「〔実写を〕トレースすれば、まずまずのよい結果が得られるのに、わざわざ作画してアニメーションの予算を使うのは疑問だ」（p. 333）とする著者の見解に対しては、日本のアニメーターの多くが異を唱えるだろう。無生物を動かすアニメーション（爆発やメカアクション）は日本のアニメーションが得意とする領域であって、そこにも動きの芸術としてのアニメーションの力が存在することを我々は知っているからである。

なお、原著が出版された 1981 年にはまだピクサーも存在せず、従って CG 関連の記述はない。しかし、ピクサー等の CG アニメーションもその根底原理は変わらずディズニー流の「生命の幻影」であることを考えると、本書の射程は今なお有効だと言えるだろう。必読の書として強く推薦する理由である。

アニメーション学科　准教授　権藤俊司

図書館スタッフのおすすめ

『美術のトラちゃん』　パピヨン本田　イースト・プレス　2023 年

松井こずえ

ブルーピリオド。そう聞いて何を思い浮かべましたか。

今だと山口つばさ作の美術漫画、またはアニメ作品を思い出す方が多いのではないでしょうか。少し美術に詳しければピカソの「青の時代」を思い出す方もいるでしょう。

このように知識があれば、一つのものからたくさんの発想を引き出すことができます。

技術は時間をかければある程度は上達しますが、アイデアやセンスはそうはいきません。大量に作品を作る事（アウトプット）で養っていくものだと思いますが、それにはやはり大量のインプットが不可欠です。

「美術のトラちゃん」は絵画、彫刻以外にも、写真、映像、演劇、デザインなど、現代美術を包括的かつ横断的に紹介した、今イチオシの美術入門書です。

登場するキャラクターも、かわいいトラちゃんや、嫉妬をこじらせて虎になってしまったパパ、どこかで聞いたような名前の安藤壁穴（あんどうウォールホール）先生など、個性豊か。

文字数の多さに一見、圧倒されるかも知れませんが、「ジョン・ケージが領域展開」「がんばりキテンスタイン」「アート地獄めぐり」など、アニメやゲームのパロディが満載なので面白おかしく読むことができます。

芸術学部の全学生必読（と個人的には思っている…）、お勧めの 1 冊です。

『マンガ学からの言語研究 「視点」をめぐって』　出原健一　ひつじ書房　2021 年

森安瑞希

マンガ学と言語学、2 つの学問の接点を皆さんは思いつくでしょうか。

本書は認知言語学専門で滋賀大学教授の著者が、マンガ好きが高じて執筆した意欲作です。マンガの画像をふんだんに使って解説しているので、一見軽い読み物のように感じますが、実際に読んでみると重厚な認知言語学の専門書となっています。

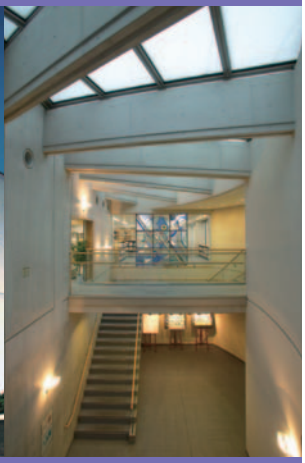
本書の特徴はその構成に表れています。2 章ではマンガ学専攻の為の認知言語学入門を、対になる 3 章では言語学者の為のマンガ学入門を、そして 4 章では 2 つの学問の接点を「視点」という観点から分析します。5 章・6 章にて、マンガ学の視点論を取り入れることでこれまで認知言語学だけでは解き明かせなかった謎に立ち向かっています。具体的には、マンガやライトノベルに多く見られる「変わったルビ」と英語の「自由間接話法」について考察しています。

認知言語学の知見もマンガ学の研究に役立つのではないか、本書が 2 つの学問の橋渡しになれたら、という著者の思いから言語学の解説も丁寧に行われています。

様々な分野の専門家が手を取り合うことで、学問は更に深く解明できる、そんなロマンの詰まった一冊となっています。是非、皆さんの研究にも役立ててください。

今後の展示予定

●2024 年度図書館報展



開館日時

通常期
月～金／9:00～20:00　土／9:00～17:00　日・祝祭日／休館日

夏季・冬季・春季休暇
月～金／9:00～17:00　土・日・祝祭日・一斉休暇／休館日

●本学卒業生、提携大学や中野区に在住・在勤の方は、所定の手続き後、東京工芸大学中野図書館をご利用いただけます。
●ご来館の際は、ホームページなどで開館日時を事前にご確認ください。

2024年11月発行

東京メトロ丸ノ内線、都営地下鉄大江戸線、「中野坂上」駅下車、1番出口から徒歩7分

KOGEI 100th Anniversary Since1923 100

表紙イラストレーション：サトウアユム

1999年生まれ。2022年東京工芸大学芸術学部デザイン学科卒業。
HB File Competition Vol.34 特別賞 河西達也 賞 受賞。

作品タイトル「世界を変える方法が記されているのに」

作品コメント：本からでしか得られないものがあると思います。たまには本を読んでみるのも良いかもしれません。

東京工芸大学 中野図書館

164-8678 東京都中野区本町2-9-5　tel 03-5371-2733　https://www.t-kougei.ac.jp/library/